

東北学院大学教育総合研究所2023年度活動

1. 教育研究所報告集第23集 配布・発送:2023年3月

学内配布79部 学外発送113部

2. 所員会議 2023年8月8日 16:00~16:30

場所：第三会議室（五橋キャンパス6階）、対面開催

出席者（敬称略）：

千葉昭彦（経済学部）、神林博史（人間科学部）、紺野祐（文学部）、加藤卓（文学部）、
松本進乃助（文学部）、清多英羽（文学部）、大門耕平（文学部）、
原義彦（地域総合学部）、泉山靖人（地域総合学部）、角田仁昭（教養教育センター）、
金永晃（教養教育センター）、中村教博（教養教育センター）、
嶋田みのり（ラーニング・コモンズ）、遠海友紀（教養教育センター）

欠席者（敬称略）：

高橋千枝（文学部）、佐藤正寿（文学部）、清水遥（文学部）、大友麻子（文学部）、
長島康雄（文学部）、清水貴裕（地域総合学部）、楊世英（教養教育センター）、
岸浩介（教養教育センター）、渡辺通子（文学部）、稲垣忠（文学部）、
大迫章史（地域総合学部）、齋藤渉（教養教育センター）、
千葉真哉（教養教育センター）、坪田益美（地域総合学部）

1. 報告

(1) 2022年度予算決算【資料1】

2022年度教育研究所予算の各項目の執行状況報告

(2) 2022年度の学会参加【資料1】

昨年度実施の学会参加内容確認

オンライン参加の参加費のみ執行 旅費の執行なし

2. 審議事項

(1) 今年度の活動計画【資料1、2】

①図書・消耗品について購入希望を随時受け付けている。

②以下の学会・研究会への参加状況と、今後の開催状況について確認した。

・第45回大学教育学会（ハイブリット形式）

⇒参加者：齋藤渉先生（対面参加）

・第72回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会（対面形式）

⇒参加者：千葉昭彦先生

・大学教育学会2023年度課題研究集会（対面形式）

⇒参加者：楊世英先生

・第30回京都大学教育研究フォーラム（京都大学）

⇒学会の詳細が決まり次第、参加者を募集する。

例年、1月上旬頃に詳細が発表される。

(2) 報告集第24集の編集方針について【資料3】

「教育研究所報告集」は研究所の名称変更に伴い「教育総合研究所報告集」に変わる。2023年度は「教育研究所報告集第23集」の続きで「教育総合研究所報告集第24集」の発行とする。執筆申込締切りを10月31日（火）稿締切りを12月20日（水）とし執筆を依頼することにした。

(3) 新規事業の申請、来年度予算編成について

新次年度以降の教育総合研究所の活動としてシンポジウム、講演会を開催するなどが考えられる。各部門長を中心に相談いただきながら案を出していただき、来年度予算申請の際に新規事業として反映するという提案があった。

以上

教育総合研究所参加の2023年度学会・研究会

以下、教育総合研究所が機関会員になっているFD関係の学会ならびに所員が継続的に参加している研究フォーラム等の2023年の活動を報告します。この種の学会やフォーラムに参加を希望される教職員は、本学の「FD推進委員会」管轄の旅費をご活用下さい。詳しくは、各学部のFD推進委員会委員にお問い合わせ下さい。

1. 大学教育学会第45回大会

会場校：大阪大学

日時：2023年6月3日(土)、4日(日)

参加者：齋藤 渉

統一テーマ：「ポストコロナ時代の高大接続」

大会プログラム

第1日：6月3日(土)

8：45	受付開始
9：00－9：45	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10：00－12：00	ラウンドテーブル
12：00－13：15	昼食
13：15－13：45	事業報告会
13：45－14：00	開会行事
14：10－15：00	基調講演：合田哲雄氏（文化庁次長）
15：10－17：30	シンポジウム

第2日：6月4日(日)

10：00－12：00	自由研究発表Ⅰ
12：00－13：00	昼食
13：00－15：00	自由研究発表Ⅱ

参加したセッションの内容と所感

1. 初めて参加する人のためのオリエンテーション

大学教育学会第45回大会において、当職もはじめて参加することとなった。

このプログラムは対面のみで実施され、ラウンドテーブルの実施方法、研究発表方法などを次回の大会発表に向けたオリエンテーションも兼ねており、初めて参加するためには有意義なものであった。

2. ラウンドテーブル19 「【課題研究】大学教育・経営人材と育成プログラム」

「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」に関するラウンドテーブルであり、主に以下の5つの観点からプロジェクトテーマを巡る議論を行ってきた。①大学院プログラム学習者の視点 ②大学院プログラム教育者の視点 ③大学職員研究の視点 ④大学経営研究の視点 ⑤国際比較の視点に基づいて、議論された。大学教育・経営人材と育成プログラムとしての大学関係者に向けた大学院教育プログラムは、国内にも東京大学大学院などでも行われており、履修証明プログラムも行われている。そのような中で、研究としての側面と、経営人材を育成する側面としての教育は、高等教育を支える人材養成において必要なこととなりうることを自身の経験からも感じる事ができた。

3. 基調講演「新学習指導要領と高大接続」合田 哲雄 氏（文化庁次長）

特に印象に残った部分として、新学習指導要領と高大接続の観点から、大学教育に問われるものは、大学関係者と高校関係者（初等中等教育関係者）が学習の階層分類を共有しながら対話することの重要性となっている。そのような中でも本学においては、どのような社会を創造したいかを構想し、それを実現するために、学部・学科等の教育研究組織、カリキュラム、入試を一体的に検討し、これを広く社会と共有する必要がある。

4. シンポジウム「ポストコロナ時代の高大接続のあり方を問う」

シンポジスト：清水 一彦 氏（山梨大学副学長）

葉一 氏（教育YouTuber）

阪口 篤志 氏

（大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター 教授）

コメンテーター：山本 啓一 氏（北陸大学）

司 会 進 行：佐藤 浩章 氏（大阪大学）

阪口篤志氏の発題が参考になった。従来の高大接続事業は、高等学校からの依頼ベースの活動が多く、大学側は受け身の対応に追われがちだった。しかし、高大接続事業を大学からのメッセージとして高校生や高等学校に向け、大学の活動や企画もそれに応じて変化させる必要がある。大阪大学SLiCSセンターの高大接続部が実施している、高校教員向け、高校生向けのセミナーは、高大接続事業の発展に寄与しており、これは本学においても参考になる。

5. 自由研究発表Ⅰ：部会5 学士課程教育（1）

- 10：00～10：20 直接評価による教育の質保証
－山形大学における基盤力テストの分析と活用－
- 10：40～11：00 理系学部における社会連携教育プログラムの実践
- 11：00～11：20 オンライン授業による大学間連携の可能性
－九州地区国立大学間連携事業「九州学」を例に－
- 11：20～11：40 マイナープログラム履修の有無が学生の学習成果・学習プロセスに与える効果の検討
- 11：40～12：00 総合討論

山形大学における直接評価を用いた学修成果の可視化に関する事例研究は参考になる。同大学では独自の基盤力テストを用いて学修成果を可視化し、その成果を学内機関紙等で公表している。本学においても、外部の標準化されたアセスメントテストの結果を活用し、学修成果の可視化を試みることは重要な課題である。

6. 自由研究発表Ⅱ：部会16 大学運営

- 13：00～13：20 オーストラリア国立大学における多様性、公正、包摂の組織的推進に関する研究
- 13：20～13：40 教学マネジメントのためのデータ活用に関する基礎的考察～アセスメントプラン等に関する全国調査分析を通して～
- 13：40～14：00 教学マネジメントの理解浸透に係る施策に関する一考察
- 14：00～14：20 地方私立大学の学部等連携課程への挑戦
- 14：20～14：40 IR組織・担当者の能力と大学執行部の期待の関係自由研究発表Ⅲ：

第3番目に発表された教学マネジメントの理解と浸透に関する施策に興味を持った。こ

のセッションでは、国公立大学20校のインタビュー結果に基づいて発表が行われた。発表では、「教学マネジメント」という用語を避け、「自己点検・評価」や「内部質保証」という言葉を使用することが、研修対象者にとって理解しやすく、当事者意識を高める効果があることが示された。本学においても、教学マネジメントの概念を学内構成員がどのように捉え、関与していくかを検討する必要がある。

2. 第72回東北・北海道地区高等教育研究会

会場校：小樽商科大学

日 時：2023年9月7日(木)、8日(金)

参加者：千葉 昭彦

全体テーマ：「コロナ終息後に高まる新たな高等教育の視座」

〔日 程〕

9月7日(木) 10時から総会および全体会Ⅰ、13時から17時分科会3および1に出席

9月8日(金) 9時30分から全体会Ⅱに出席。

〔概 要〕

全体会Ⅰでは東京大学の両角先生による基調講演「新しい時代の大学教育」があり、大学教育の歴史的潮流や文科省に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に関する解説、さらには今後の大学の役割としてのリカレント教育の話などがあった。まず、今日の大学教育をめぐる問題として、学士課程の課題は「科目の内容が各教員の裁量に依拠し、教員間の連携が充分ではないこと」、「授業科目が細分化され、開設科目が多いこと」、「教育改善に関するPDCAサイクルが確立されていないこと」などが指摘されていた。またほかにも教員の担当コマ数が多いことなども指摘されていた。教学マネジメントの課題としては、専門分野によって教学マネジメントに対する考え方が大きく異なることや、教育改善の負担が大きいこと、ただ役職者以外の理解は高くないことなどが指摘されていた。ほかにも、AI時代の大学教育とそこで求められるリテラシーなどについても言及していたが、今後の大学がより求められることとしてリカレントの取り組みに関しても言及していた。全体としては必ずしも新しい内容ではなかったし、個人的にリカレントに関する質問等を行ったが、時間が十分ではなかったために改めて問い合わせをすることとした。

分科会においてはアイヌ文化教育や野生動物死因解剖などと言った、本学では接点がない教

育実践などの話しが聞け、大学教育の幅の広さを実感することができた。また、岩手大学での大人数によるアクティブラーニングや内部質保証システムの話などもあり、本学での大規模授業よりも規模が小さい授業ではあるが意欲的な試みとして有益であった。

2日目の全体会Ⅱでは「グローバル教育の成果と課題」との報告があったが、小樽商科大だから可能な話しであるので、本学および仙台などでは参考にするには少し難しい感じではあった。

3. 大学教育学会 2023年度課題研究集会

会場校：北陸大学

日 時：2023年11月11日（土）、11月12日（日）

参加者：楊 世英

統一テーマ「学習者中心の大学マネジメントを考える」

このたび学教育学会2023年度課題研究集会に参加させていただきましたありがとうございます。貴重な機会をいただき、大変勉強になりました。御礼申し上げます。そして参加したセッション（ポスターセッション・情報交換会を含めて、情報交換会）の内容や得た情報を所員の先生方々に伝えたく以下のように書かせていただきました。

2023年度大学教育学会が主催した「2023年度大学教育学会課題研究集会」は2023年11月11日から12日まで北陸大学太陽が丘キャンパスで開催されました。コロナ以来初の対面式大会なので、各大学が非常に高いがあって、大会参加者は多かった。基調講演をはじめセッション発表報告が数多く、しかも教育現場を密接に関係している事例研究を充実したことは今大会の特徴と言えます。

大会参加した概要（内容紹介を含む）は以下の通りです。まず初日11月11日土曜日午前中12時15分までは北陸大学太陽が丘キャンパス4号館CROSSHALLで開催されたポスターセッションに参加しました。ポスター発表数が多くて全部回っていなかったため初年度教育に関する方法や事例研究が多かった。大学教育学会HPはポスター発表タイトルなどを載せています。ご参照いただければ助かります。11日午後13:00から2号館201大講義室で開催された開会式・基調講演（「学習者中心の大学マネジメント」）・開催校シンポジウム（「学生中心の大学づくりのための大学リーダーシップの多層性」）に参加しました。基調講演のテーマは「学習者中心の大学マネジメントを考える」でした。要するに新型コロナウイルスの影響を受け、大

学でオンライン教育の導入や拡充が進むに従い、学生の学習行動や学びの実態への理解がますます重要になったからである。主要内容は「学修」ではなく、ラーニングを意味する「学習」を用い、学習者を中心とした大学マネジメントを多元的な視点から捉え直し、その意義やアプローチを検討する必要があると思われる。

その後開催校シンポジウムがありました。テーマは「学生中心の大学づくりのための大学リーダーシップの多層性」です。大学教育前線に立った教員が学生主体の大学づくりの重要性を熱く議論しました。とくに登場した北陸大学経営学部4年生が学生の生の声を聴かれて会場にも共鳴しました。

初日最後は毎年恒例の情報交換会がありました。各大学の教育関係者とコロナ後の教育の在り方について意見交換や情報収集を務めました。各大学ではコロナを受けて初年度教育に力を入れているという感じがありました。初修外国語などは情報機器を活かすよりもコマ数増が改めて実行に移っている大学は増えています。

そして二日目の午前中は課題研究シンポジウムⅠ（「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性—対象・方法・内容—」）を聴講しました。

要するにオンラインによる非対面授業が大学にもたらした影響や変化はなんでしょうか。そしていまも多くの大学がメディア授業と訴えて、従来の大学教育とは違う形で教育質を保証できるかを意識したものです。現状を踏まえながら大学教育の可能性を探ります。一つは学生の学習を支援すること、つまり学習環境デザインしながら学修成果を評価します。そしてコロナ後の学習環境の運営に関わること、学習環境の設置・運営・改善に携わる教職員や学生スタッフが活用可能な「学習環境ハンドブック」を事例として紹介されました。コロナ後の大学教育について課題研究の成果と今後の展開などを触れました。報告は二つグループを分けて計7本がありました。学修支援環境のデザインや問題点、そして実施可能性について様々な意見を提示してくれました。

もう一つ同時開催した「課題研究シンポジウムⅡ」を「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」について資料報告となります。学会課題研究「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」は課題研究として（1）大学教育・経営人材の育成プログラムの設計理念と実践（東北大学で履修証明プログラムの運営と実践）（2）大学職員研究の知見と修了生調査にみる論点（これまでの大学職員研究の知見、および大学院プログラムの修了生調査）（3）大学教育・経営人材のアイデンティティ形成とキャリア（職員のアイデンティティや多様性、キャリアといった論点を巡って）（4）高等教育大学院プログラムの国際比較（アメリカにおける高等教育分野の大学院教育プログラム）を挙げられました。

さらに二日目午後2つ課題シンポジウムが開催されました。同時開催なので、まとめて資料報告いたします。

「課題研究シンポジウムⅢ」は「職場としての大学のリアルー SDGs の観点から考える男女共同参画・教職協働・働き方改革」をテーマとしました。男女共同参画・教職協働・働き方改革は、開かれた組織や多様性、透明性、構成員の幸福度や働きがいを、大学において実現するものである。これは、これまで職能開発やマネジメント改革を中心に議論されてきた大学改革に、生活の質や自己実現、共同体という視点を導入するものです。

しかし多くの大学は、ミッション・ステートメントにおいて、大学理念を提示しているが、教職員が、大学理念と現場の実情の乖離に悩んでいることも確かです。シンポジウムでは、『大学職員のリアル』著者倉部史記氏やかつて文部科学省において教育行政に携わり、現在は、早稲田大学において大学業務の現場に立たれている喜久里要氏が状況紹介をしました後、金沢大学など事例紹介がありました。2.「既存の調査結果からみた職場としての大学」「大学を出て感じた大学のリアル」「大学に入って感じた大学のリアル」など紹介されました。

もう一つは「課題研究シンポジウムⅣ」、「学士課程における卒業研究教育の目標・評価・方法」です。課題研究は、学士課程における卒業研究教育の目標・評価・方法の現状と課題を明らかにするとともにより効果的な卒業研究教育の実現方法を模索することを目的としています。今大会ははじめて取り上げる課題です。大学教育の質保証、学士課程教育としての各種方針の策定、学修成果の可視化、それらに基づく教学マネジメントが取り上げ、卒業研究は、学士課程教育の成果を統合的・最終的・客観的に検証できるもの、より良い大学教育の在り方を議論します。学士課程における卒業研究教育の目標・評価・方法の研究や卒業研究教育の実態調査、卒業研究教育の事例報告がなされました。

大会参加の報告は以上となります。これらの情報を総合教育研究所の先生方々と共有できたら幸いです。

最後に個人としての感想としては大変有意義な大会参加でした。教育関係の課題研究を中心とした集会なので、非常に勉強となりました。実用性は非常に高い。教養教育センターの教員としては教養教育に携わって、学術面だけではなく、教育現場に有った問題に解決するための示唆とかヒントとも得たことが非常に大きかった。具体的に挙げますと、大学教養教育の質保証の観点から、学修成果の可視化により教学マネジメントが重要であって、とりわけ、教養教育は、学士課程教育の基礎である以上、客観的に検証できるものがなければ大学教育の質を保証できないと再認識できました。これらの知見を今後の教育現場に活かしながら、より良い大学教養教育を期待され、何により今回大会参加の収穫です。今後ともよろしく願いいたします。

教育総合研究所購入図書一覧（2006年以降）

教育総合研究所の所蔵図書の閲覧を希望される教職員の皆様は、当研究所までお申し出ください。所定の手続きを踏まえて貸出をしております。

2023年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・文・理を融合してリーダーを育てる「STEM教育」、川村一彦、幻冬舎、2022年
- ・図解で学ぶクリティカル・シンキング—トールミン・モデルを活かして、椎名紀久子、後藤希望、森川セーラ、南塚信吾、アルファベータブックス、2022年
- ・大学の歩き方・学問のはじめ方—新しい「自分」の可能性を見つけよう、大島寿美子、柿原久仁佳、金子大輔、平野恵子、松浦年男、ミネルヴァ書房、2023年
- ・組織衰退のメカニズム—歴史活用がもたらす罣、尾健治、白桃書房、2022年
- ・諸外国の高等教育（文部科学省「教育調査」シリーズ第158集）、文部科学省、明石書店、2021年

2022年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・教養と大学スタッフ 東信堂ブックレット、絹川正吉、東信堂、2022年

2021年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・カリキュラム研究事典、クレイグ・クライデル、ミネルヴァ書房、2021年
- ・東京大学のアクティブラーニング、東京大学教養教育高度化機構、東京大学出版会、2021年
- ・主体的学び7号 教えることをやめられますか、主体的学び研究所、東信堂、2021年
- ・学修成果の可視化と内部質保証、山田礼子・木村拓也、玉川大学出版部、2021年
- ・大学のIRと学習・教育改革の諸相 変わりゆく大学の経験から学ぶ、鳥居朋子、玉川大学出版部、2021年
- ・内部質保証と外部質保証 社会に開かれた大学教育をめざして、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構、ぎょうせい、2020年
- ・イギリス大学制度成立史、山崎智子、東信堂、2021年

2020年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・全国学力テストはなぜ失敗したのか、川口俊明、岩波書店、2020年
- ・大学改革の処方箋、篠田道夫、東信堂、2020年
- ・変動する大学入試、伊藤実歩子、大修館書店、2020年
- ・東大という思想、吉見俊哉・森本祥子、東京大学出版会、2020年
- ・「社会人教授」の大学論、宮武久佳、青土社、2020年
- ・日本型公教育の再検討、大桃敏行、背戸ひろし、岩波書店、2020年
- ・大学での学び、田中俊也、関西大学出版部、2020年

2019年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・主体的学び6号 いま、なぜ教養教育が必要なのかを問う、主体的学び研究所、東信堂、2019年
- ・現代の教育改革、徳永保、ミネルヴァ書房、2019年
- ・大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか、山村滋・濱中淳子・立脇洋介、ミネルヴァ書房、2019年
- ・東京大学駒場スタイル、東京大学教養学部、東京大学出版会、2019年

2018年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・未来の学校、トニー ワグナー、玉川大学出版会
- ・国語ゼミ、野矢茂樹、山川出版社
- ・親が知っておきたい教育の疑問、石井としろう、集英社
- ・持続的な学びのための大学授業の理論と実践、安藤輝次、関西大学出版部
- ・〈まちなか〉から始まる地方創生、福川裕一・城所哲夫、岩波書店
- ・ディープ・アクティブラーニング、松下佳代ほか、劉草社 青土社
- ・大学での学び方、成城大学共通教育研究センター、劉草社
- ・ライト・アクティブラーニングのすすめ、橋本勝、ナカニシヤ
- ・教養教育の再生、林哲介、ナカニシヤ
- ・高大接続の本質、溝上慎一、学事出版
- ・なぜオックスフォードが世界一の大学なのか、コリン ジョリス、三賢社
- ・変容する社会と教育のゆくえ、稲垣 内田、岩波書店
- ・進化する初年次教育、初年次教育学会編、世界思想社

2017年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・主体的学び別冊 特集高大接続改革、主体的学び研究所 2017年
- ・戦後日本教育方法論史（上）、田中耕治、ミネルヴァ書房 2017年
- ・戦後日本教育方法論史（下）、田中耕治、ミネルヴァ書房 2017年
- ・授業の見方、澤井陽介、東洋館出版社、2017年
- ・学習者中心の教育、メルソン・ワイマー、勁草書房 2017年
- ・私立大学はなぜ危ういのか、渡辺孝、青土社、2017年
- ・大学と学問 リーディングス日本の高等教育5、橋本鉦市、玉川大学出版
- ・大学と学問 リーディングス日本の高等教育6、橋本鉦市、玉川大学出版

2016年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・たったひとつを変えるだけ、ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ、新評論、2016年
- ・大学入試改革、読売新聞教育部、中央公論社、2016年
- ・なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか、山本崇雄、日経BP社、2016年
- ・ファシリテーションで大学が変わる、中野民夫、ナカニシヤ出版、2016年
- ・大学のアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2016年
- ・アクティブラーニングを創るまなびのコミュニティ、池田輝政・松本浩司、ナカニシヤ出版、2016年
- ・「主体的学び」につなげる評価と学習方法、J.ウイルソン、東信堂、2016年
- ・アクティブラーニングを支えるカウンセリング24の基本スキル、小林昭文、ほんの森出版、2016年
- ・アクティブラーニング 大学の教授法3、中井俊樹、玉川大学出版部、2015年
- ・主体的学び4号 アクティブラーニングはこれでいいのか 主体的学び研究所、東信堂、2016年
- ・アクティブラーニングのデザイン 永田敬・林一雅、東京大学出版会 2016年
- ・学力の経済学、中室牧子、ディスカバー21、2016年

2015年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・高等教育の社会学、パトリシア・J・ガンポート、玉川大学出版部、2015年
- ・大学教育の変貌を考える、三宅義和、ミネルヴァ書房、2014年
- ・大学生の学習ダイナミクス、河井亨、東信堂、2014年
- ・大学は社会の希望か、江原武一、東信堂、2015年

- ・大学改革を問い直す、天野郁夫、慶応義塾大学出版会、2013年
- ・アウトカムの基づく大学教育の質保証、深堀聰子、東信堂、2015年
- ・大学の I R Q & A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・大学版 I R の導入と活用の実際、佛淵孝夫、実業之日本社、2015年
- ・「深い学び」につながるアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2013年
- ・ラベルワークで進める参画型教育、林義樹、ナカニシヤ出版、2015年
- ・未来の大学教員を育てる、田口真奈、勁草書房、2013年
- ・協働で学ぶクリティカル・リーディング、舘岡洋子、ひつじ書房、2015年
- ・立命館大学（I R 方式・センター試験併用方式）、数学社編集部、数学社、2015年
- ・アカデミック・アドバイジング、清水栄子、東信堂、2015年
- ・主体的学びにつなげる評価と学習方法、スー・フォスタティ・ヤング、東信堂、2013年
- ・主体的学び創刊号パラダイム転換、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び2号反転授業がすべてを解決するのか、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び3号アクティブラーニングとポートフォリオ、主体的学び研究所、東信堂、2015年
- ・思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント、関東地区 F D 連絡協議会、ミネルヴァ書房、2013年

2014年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・シリーズ大学7巻対話の向こうの大学像、広田照幸、岩波書店、2014年
- ・高等教育研究 第1集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1998年
- ・高等教育研究 第2集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1999年
- ・高等教育研究 第3集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2000年
- ・高等教育研究 第4集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2001年
- ・高等教育研究 第9集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2006年
- ・高等教育研究 第10集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2007年
- ・高等教育研究 第11集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2008年
- ・高等教育研究 第13集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2010年
- ・高等教育研究 第14集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2011年
- ・高等教育研究 第16集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2013年
- ・高等教育研究 第17集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2014年
- ・現代教育制度改革への提言 上、日本教育制度学会、東信堂、2013年

- ・現代教育制度改革への提言 下、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・ディープアクティブラーニング、松下佳代、勁草書房、2015年
- ・アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、溝上慎一、東信堂、2014年
- ・教育方法原論、吉田卓司、三学出版、2013年
- ・学びの質を保証するアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2014年
- ・学生の理解を重視する大学授業、ノエル・エントウイスル、玉川大学出版部、2010年
- ・アメリカ研究大学の大学院、阿曾沼明裕、名古屋大学出版会、2014年

2013年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学入試の終焉、佐々木隆正、北海道大学出版会、2012年
- ・大学の教務Q & A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・シリーズ大学1巻グローバルゼーション・社会変動と大学、吉田文、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学2巻大衆化する大学、濱中淳子、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学3巻大学とコスト、上山隆大、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学4巻研究する大学、小林傳司、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学5巻教育する大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学6巻組織としての大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・大学生のための「社会常識」講座、松野弘、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学生活を楽しむ護身術、宇田光、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学1年生からのコミュニケーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生からのプレゼンテーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2012年
- ・新編大学学びのことはじめ、佐藤智明、ナカニシヤ出版、2011年
- ・理工系学生のための大学入門、金田徹、ナカニシヤ出版、2012年
- ・プロフェッショナル・ディベロップメント、安藤厚、北海道大学出版会、2012年
- ・航行をはじめた専門職大学院、吉田文、東信堂、2010年
- ・日本とドイツの教師教育改革、渡邊満、東信堂、2010年
- ・教員養成学の誕生、遠藤孝夫、東信堂、2007年
- ・教育機会均等への挑戦、小林雅之、東信堂、2012年
- ・アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策、犬塚典子、東信堂、2006年
- ・現代アメリカにおける学力形成論の展開、石井英真、東信堂、2011年
- ・アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング、唐木清志、東信堂、2010年
- ・ソーシャルキャピタルと生涯学習、ジョン・フィールド、東信堂、2011年

- ・ノンフォーマル教育の可能性、丸山英樹、新評論、2013年
- ・日本の社会教育・生涯学習、小林文人、大学教育出版、2013年

2012年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・比較教育学事典、日本比較教育学会編、東信堂、2012年
- ・大学のカリキュラムマネジメント－理論と実際－、中留武昭著、東信堂、2012年
- ・学生の学力と高等教育の質保証＜1＞、山内乾史緒、学文社、2012年
- ・教育学年報〈9〉大学改革（教育学年報9）、藤田英典（編集）、片桐芳雄（編集）、黒崎 勲（編集）、佐藤 学（編集）、世織書房2012年
- ・高等教育論入門、早田幸政（編集）、青野 透（編集）、諸星 裕（編集）、ミネルヴァ書房、2010年
- ・ボランティア教育の新地平、桜井 政成（編さん）、津止 正敏（編さん）著、ミネルヴァ書房 2009年
- ・大学生のためのリサーチリテラシー入門、山田剛史、林創著、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学における学習支援への挑戦、日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学と変える大学教育、清水亮、橋本勝、松本美奈編、ナカニシヤ出版、2009年
- ・学生主体型授業の冒険、小田隆治、杉原真晃編著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学におけるキャリア教育の実践、小樽商科大学地域研究会編 ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生のためのデザインキャリア、渡辺三枝子、五十嵐浩也、田中勝男、高野澤勝美著、ナカニシヤ出版、2011年
- ・大学生のキャリア発達、宮下一博著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・協同学習の技法、E.F.Barkley/K.P.Cross/C.H.Major著、ナカニシヤ出版、2009年
- ・実践！アカデミックディベート、安藤香織、田所真生子編、ナカニシヤ出版、2002年
- ・生成する大学教育学、高等教育研究開発推進センター編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生・職員と創る大学教育、清水亮、橋本勝編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生の納得感を高める大学授業、山地弘起、橋本健夫編著、ナカニシヤ出版、2012年
- ・グローバルキャリア教育、友松篤信編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学教育の臨床的研究 田中每実著、東信堂、2011年
- ・スタンフォード 21世紀を創る大学、ホーン川嶋瑤子著、東信堂、2012年
- ・学士課程教育の質保証へむけて、山田礼子著、東信堂、2012年
- ・大学自らの総合力、寺崎昌男著、東信堂、2010年

2011年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 批判的思考力を育む、楠見 孝、子安増生、道田泰司、有斐閣、2011年
- ・ 高等教育室保証の国際比較、羽田貴史、杉本和弘、米澤彰純、東信堂、2009年
- ・ 私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂 2010年
- ・ 学習経験をつくる大学授業法、L. デイー・フィンク、玉川大学出版部、2011年
- ・ 変貌する世界の大学教授職、有本 章、玉川大学出版部、2011年
- ・ 学級経営読本、小島 宏、玉川大学出版部、2012年
- ・ 転換期日本の大学改革、江原武一、東信堂、2010年
- ・ 成績評価の厳格化と学習支援システム 半田智久、地域科学研究会 2011年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会―⑫高等教育 塚原修一、広田照幸、日本図書センター、2009年

2010年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 大学の反省、猪木武徳、N T T 出版、2009年
- ・ 2011年版大学ランキング、週刊朝日進学MOOK、2010年
- ・ 初年次教育でなぜ学生が成長するのか、河合塾、東信堂、2010年
- ・ 学力問題のウソ、小笠原喜康、P H P 研究所、2008年
- ・ 大学とキャンパスライフ 武内清 上智大学出版 2005年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会―第1巻 学力問題・ゆとり教育、中村高康編、玉川大学出版部、2010年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会―第3巻 子育て・しつけ、橋本鉦市編、玉川大学出版部、2010年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会―第5巻 大学と学問、阿曾沼明裕、玉川大学出版部、2010年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会―第6巻 歴史教科書問題、村澤昌崇編、玉川大学出版部、2010年
- ・ 大学と社会、安原義仁、放送大学教育振興会、2008年
- ・ 高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・ 私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂、2010年
- ・ 戦後日本産業の大学教育要求、飯吉弘子、東信堂、2008年
- ・ 大学教育を科学する、山田礼子、東信堂、2009年
- ・ 大学における書く力考える力、井下千以子、東信堂、2008年

- ・2010年版大学ランキング、朝日新聞出版、2009年
- ・「教育改革」と労働のいま、日本社会臨床学会、現代書館、2008年
- ・国際移動と教育、江原裕美、明石書店、2011年
- ・グローバル化時代の教育の選択、増淵幸男、上智大学出版、2010年
- ・大学の危機、草原克豪、弘文堂、2010年
- ・教育用語辞典、山崎英則編、ミネルヴァ書店、2003年
- ・教育学をひらく 鈴木敏正 青木書店 2009年
- ・「教育」としての職業指導の成立 石岡学 勁草書房 2011年
- ・大学を変える 東海高等教育研究所 大学教育出版 2010年
- ・シティズンシップへの教育 中山あおい 新曜社 2010年
- ・学校の挑戦 佐藤学 小学館 2006年
- ・教師花伝書 佐藤学 小学館 2009年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―③子育て・しつけ 広田照幸 日本図書センター
2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑤愛国心と教育 大内裕和 日本図書センター
2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑥歴史教科書問題 三谷博 日本図書センター
2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑦子どもと性 浅井春夫 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑧いじめ・不登校 伊藤茂樹 日本図書センター
2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑨非行・少年犯罪 伊藤茂樹 日本図書センター
2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑩子どもとニューメディア 北田暁大・大多和直樹
日本図書センター、2007年

2009年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第一巻、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第二巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第三巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・論文を書くためのWord利用法、くろしお出版、2009年
- ・知のナビゲーター、くろしお出版、2007年

- ・ 知へのステップ 改訂版、くろしお出版、2006年
- ・ 知のワークブック、くろしお出版、2006年
- ・ 落下傘学長奮闘記 黒木登志夫、中央公論新社、2009年
- ・ 最新教育データブック 第12版、清水一彦、時事通信出版局、2008年
- ・ アカデミック・ポートフォリオ、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2009年
- ・ 基礎からわかるポートフォリオの作り方・すすめ方、佐藤真、東洋館出版社、2002年
- ・ 国民国家システムの変容、吉川宏、学術出版会、2008年
- ・ アメリカの大学開放、五島敦子、学術出版会、2008年
- ・ 近代日本教育会史研究、梶山雅史、学術出版会、2007年
- ・ 臨時教育審議会、渡部蕪、学術出版会、2006年
- ・ 大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究、峯石緑、溪水社、2002年
- ・ 大学の實力、読売新聞社、中央公論新社、2009年
- ・ 大学を語る 22人の学長、玉川大学出版部、1997年
- ・ 大学個性化の戦略、玉川大学出版部、2000年
- ・ 大学教師の自己改善、玉川大学出版部、2000年
- ・ 大学進学の世界、小林雅之、東京大学出版会、2009年
- ・ 21世紀の教育を拓く、山田耕路、西日本新聞社、2009年
- ・ 高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・ 教育とエビデンス、経済協力開発機構、明石書店、2009年
- ・ 教育研究ハンドブック、立田慶裕、世界思想社、2008年
- ・ キャリア教育概説、日本キャリア教育学会、東洋館出版社、2008年
- ・ 変貌する日本の大学教授職、有本章、玉川大学出版部、2008年
- ・ 統計学から計量経済学入門、藤山英樹、昭和堂、2007年
- ・ 批判的リテラシーの教育、竹川慎哉、明石書店、2010年
- ・ 転換期を読み解く、潮木守一、東信堂、2009年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会 第1巻、学力問題・ゆとり教育、広田照幸、日本図書センター、2009年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会 第2巻、学歴社会・受験戦争、広田照幸、日本図書センター、2007年
- ・ リーディングス 日本の教育と社会 第4巻、教育基本法、広田照幸、日本図書センター、2006年

- ・リーディングス 日本の教育と社会 第12巻、高等教育、広田照幸、日本図書センター、2009年

2008年度購入図書一覧（和書・順不同）

※学力低下は錯覚である、神永正博、森北出版、2008年（第9号に書評掲載）

- ・国立大学・法人化の行方、天野郁夫、東信堂、2008年
- ・フンボルト理念の終焉？—現代大学の新理念、潮木守一、東信堂、2008年
- ・教育人間論のルーマン、田中智志・山名淳、勁草書房、2004年
- ・他者の喪失から感受へ、田中智志、勁草書房、2002年
- ・大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編、橋本修、三省堂、2008年
- ・自分 私を拓く、水原克敏、東北大出版、2003年
- ・三高の見果てぬ夢—中等・高等教育成立過程と折田彦市、巖平、思文閣出版、2008年
- ・札幌農学校と英語教育、外山敏雄、思文閣出版、1992年
- ・高等教育の経済分析と政策、矢野眞和、玉川大学出版部、1996年
- ・大学改革の海図、矢野眞和、玉川大学出版部、2005年
- ・教育社会の設計（UP選書）、矢野眞和、東京大学出版会、2001年
- ・入試改革の社会学、中澤渉、東洋館出版社、2007年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2008年
- ・学校システム論、竹内洋、放送大学教育振興会、2007年
- ・これからの教養教育—「カタ」の効用（未来を拓く人文・社会科学）、葛西康德、鈴木佳秀、東信堂、2008年
- ・団塊世代の同時代史（歴史文化ライブラリー）、天沼香、吉川弘文館、2007年
- ・戦後教育のなかの〈国民〉—乱反射するナショナリズム、小国喜弘、吉川弘文館、2007年
- ・知と学びのヨーロッパ史—人文学・人文主義の歴史的展開（MINERVA西洋史ライブラリー）、南川高志、吉川弘文館、2007年
- ・改めて「大学制度とは何か」を問う、舘昭、東信堂、2007年
- ・原点に立ち返っての大学改革、舘昭、東信堂、2006年
- ・30年後を展望する中規模大学マネジメント・学習支援・連携、市川太一、東信堂、2006年
- ・ティーチング・ポートフォリオ—授業改善の秘訣、土持ゲーリー法一、東信堂、2007年
- ・世界標準の読解力—OECD・PISAメソッドに学べ、岡部憲治、白日社、2007年
- ・心理統計学の基礎—統合的理解のために、南風原朝和、有斐閣アルマSPECIALIZED、2002年

- ・実践的研究のすすめ—人間科学のリアリティ、小泉潤二・志水宏吉、有斐閣、2007年
- ・大学の学び・入門 大学での勉強は役に立つ！—、溝上慎一、有斐閣アルマINTEREST、2006年
- ・大学生の就職とキャリア—普通」の就活・個別の支援、小杉礼子、勁草書房、2007年
- ・大学生の職業意識とキャリア教育、谷内篤博、勁草書房、2005年
- ・働く意味とキャリア形成、谷内篤博、勁草書房、2007年
- ・キャリア教育と就業支援、小杉礼子・堀有喜衣、勁草書房、2006年
- ・教育史研究の最前線、教育学史会編、日本図書センター、2007年
- ・資料で読む前後日本と愛国心〈第1巻〉復興と模索の時代 一九四五～一九六〇、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・大学ランキング、「週刊朝日」進学MOOK、2008年
- ・日本の大学教授市場（高等教育シリーズ 142）、山野井敦徳、玉川大学出版部、2007年
- ・ベストプロフェッサー（高等教育シリーズ）、ケン・ベイン、玉川大学出版部、2008年
- ・大学の英語教育を変える—コミュニケーション力向上への実践指針、山地弘起、玉川大学出版部、2008年
- ・アメリカの学生獲得戦略（高等教育シリーズ）、山田礼子、玉川大学出版部、2008年
- ・大学教育を変える教育業績記録、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2007年

2007年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学を解体せよ、中野憲志、現代書館、2007年
- ・大学図鑑！2008、オバタカズユキ、ダイヤモンド社、2007年
- ・学生諸君！ 夏目漱石他、光文社、2006年
- ・大学教育のエクセレンスとガバナンス、地域科学研究会、地域科学研究会、2006年
- ・教育学事始め、氏家重信、北大路書房、2007年
- ・学生による教育再生会議、東京学生教育フォーラム、平凡社新書、2007年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2007年
- ・大学のイノベーション、坂本和一、東信堂、2007年
- ・あたらしい教養教育をめざして、大学教育学会、東信堂、2004年
- ・学力を育てる、志水宏吉、岩波書店、2006年
- ・大学ランキング、2008年版、週刊朝日進学 MOOK、朝日新聞社、2007年
- ・大学の教育力、金子元久、筑摩書房、2007年
- ・教育デザイン入門、実践的ソフトウェア教育コンソーシアム、オーム社、2007年

- ・大学改革その先を読む、寺崎昌男、東信堂、2007年
- ・大学卒業制度の崩壊、藤田整、文芸社、2007年
- ・大学教育の思想、絹川正吉、東信堂、2006年
- ・大学における初年次少人数教育と「学びの転換」、東北大学高等教育開発推進センター、東北大学出版会、2007年
- ・A O型入学選抜の多様な進化(上)、地域科学研究会、地域科学研究会、2000年
- ・A O型入学選抜の多様な進化(下)、地域科学研究会、地域科学研究会、2001年

2006年度購入図書一覧（和書・順不同）

※恐るべきお子さま大学生たち、ピーター・サックス、草思社、2000年（第6集に内容紹介掲載）

- ・息子・娘を成長させる大学、読売新聞社、読売新聞社、2006年
- ・潰れる大学・伸びる大学辛口採点 2007年版、梅津和郎、エール出版社、2005年
- ・大学ランキング 2007年版、朝日新聞社、朝日新聞社、2006年
- ・危ない大学・消える大学 2007年版、島野清志、エール出版社、2006年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2006年
- ・大学生活ナビ、玉川大学コア・F Y E教育センター編、玉川大学出版部、2006年
- ・大学論、エイブラハム・フレックスナー、玉川大学出版部、2005年
- ・プロフェッショナル化と大学、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2004年
- ・ヨーロッパの高等教育改革、ウーリッヒ・タイヒラー、玉川大学出版部、2006年
- ・アジアの高等教育改革、フィリップ・G・アルトバック&馬越徹編、玉川大学出版部
2006年
- ・戦後日本の高等教育改革政策、土持 ゲーリー法一、玉川大学出版部、2006年
- ・私学高等教育の潮流、Ph.G・アルトバック編、玉川大学出版部、2004年
- ・高等教育 改革の10年、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2003年
- ・大学教育「教育評価ハンドブック、ラリー・キーン&マイケル・D・ワガナー、玉川
大学出版部、2003年
- ・知識基盤社会と大学の挑戦、佐々木毅、東京大学出版会、2006年
- ・オランダの個別教育はなぜ成功したのか、リヒテル直子、平凡社、2006年
- ・じょうずな勉強法、麻柄啓一、北大路書房、2005年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・大学基礎講座 改増版、藤田哲也、北大路書房、2006年

- ・”学生”になる！、浦上昌則、北大路書房、2006年
- ・S D（スタッフ・ディベロップメント）が育てる大学経営人材、山本眞一、文葉社、2004年
- ・21世紀の大学職員像、立命館大学、かもがわ出版、2005年
- ・人が学ぶということ、今井むつみ、野島久雄、北樹出版、2003年
- ・研究計画書デザイン、細川英雄、東京図書、2006年
- ・これで書ける！大学院研究計画書攻略法、進研アカデミーグラデュエート大学部編、オクムラ書店、2002年
- ・大学力、有本章、北垣郁雄、ミネルヴァ書房、2006年
- ・大学激動、朝日新聞社、朝日新聞社、2003年
- ・大学事務職員のための高等教育システム論、山本眞一、文葉社、2006年
- ・認知心理学者 新しい学びを語る、森敏昭、北大路書房、2002年
- ・授業を変える、米国学術研究推進会議、北大路書房、2002年
- ・学力低下論争、市川伸一、ちくま新書、2002年
- ・学ぶ意欲の心理学、市川伸一、P H P 研究所、2001年
- ・学ぶこと・教えること、鹿毛雅治、金子書房、1997年
- ・授業デザインの最前線、高垣マユミ、北大路書房、2005年
- ・教材設計マニュアル、鈴木克明、北大路書房、2002年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・教育力、斎藤孝、岩波新書、2007年

所収和雑誌

- | | | |
|------------------|-------------|----------------|
| ・ 大学教育学会誌 | 1980年～ | No.1～（旧一般教育会誌） |
| ・ 大学資料 | 1989年～ | No.139～ |
| ・ 大学と学生 | 1989年～2011年 | No.397～565 |
| ・ 内外教育 | 1989年～ | No.4023～ |
| ・ 文部科学時報 | 1989年～2012年 | No.1344～1635 |
| ・ 教育委員会月報 | 1989年～ | No.465～ |
| ・ 教育情報パック | 1990年～2007 | No.401～806 |
| ・ I D E ー現代の高等教育 | 1991年～ | No.276～ |

所収資料

- ・ 発達障害白書 1996年～2001年
- ・ 文部科学白書 1996年～（旧我が国の文教政策）
- ・ 学校基本調査報告書 1992年～（初等中等教育、高等教育）

既刊「教育研究所報告集」の主要内容

第23集 2023年3月

○調査報告

- ・ Ecc-DRRの視点からみた東日本大震災後の学校防災・減災
—地震や津波という自然災害から子どもを守るための学校施設・設備—
長島 康雄
- ・ 大学生のボランティア活動に対する認識(2) 渡邊 圭・千葉 真哉・齋藤 渉
- ・ ルーブリックを用いた成績評価に関する報告
—教養学部「総合研究」の事例—
岸 浩介

○実践報告

- ・ 英語リメディアル教育におけるスピーチ指導
—写真描写を用いた活動の実践報告—
矢島 真澄美

第22集 2022年3月

○調査報告

- ・ 大学生のボランティア活動に対する認識 渡邊 圭・千葉 真哉・齋藤 渉

○研究報告

- ・ コロナ禍の中の卒業生：2020年度『卒業時意識調査』報告 神林 博史

第21集 2021年3月

○研究報告

- ・ コロナ感染症拡大に対する東北学院大学の2020年度前期の
教学上の対応経過の報告 千葉 昭彦
- ・ 2020年度遠隔授業実施を通して見えたこと 加藤 健二
- ・ IR視点からの東北学院大学の遠隔型授業の評価と改善
～学生調査に基づく教育課程の質保証の事例から～ 齋藤 渉

○報告

- ・ 英語教育センターにおける遠隔授業への対応
渡部 友子・ドンネレ アリーセ・薄井 洋子・矢島 真澄美・阪口 慧

第20集 2020年3月

○研究報告

- ・ AO入試再訪：10年の後に 片瀬 一男

○報告

- ・ 英語新カリキュラム全学化の経過と課題 渡部 友子

第19集 2019年3月

○研究報告

- ・ 留年卒業生の来歴
—「モラトリアム人間」から「マージナル学生」へ— 片瀬 一男
- ・ 教養科目におけるmanabaおよびresponの活用 松本 章代・金菱 清

○報告

- ・ ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学習支援の取り組み 嶋田みのり
- ・ ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学生スタッフの活動
—2017年度の取り組みについて— 遠海 友紀
- ・ 英語新カリキュラム（経済・経営・法・工学部）実施の経過と全学科への課題 渡部 友子

第18集 2018年3月

○研究報告

- ・ 2017年度新入生の入学時英語力とその規定因 神林 博史
- ・ ラーニング・コモンズにおける利用者ガイダンスの実践と評価 嶋田みのり
- ・ 東北学院大学 学部2年生の授業外学習に関する調査
—ラーニング・コモンズでの学習支援の検討に向けて— 遠海 友紀

○報告

- ・ 英語カリキュラム（経済・経営・法・工学部）実践初年度の経緯と課題
英語教育センター 渡部 友子・矢島真澄美・薄井 洋子

第17集 2017年3月

○研究報告

- ・ COC+事業における地域教育科目の設計と運用 松崎 光弘

- ・CAP制は学生の履修行動をどのように変えたか
—CAP制導入の「意図せざる結果」— 片瀬 一男

○報告

- ・英語教育センター2016年度の活動 渡部 友子

第16集 2016年3月

○研究報告

- ・本学における不本意入学者の特徴（2）
東北学院大学新入生意識調査の分析 2011-2015 神林 博史
- ・東北学院大学における教育の現状と課題—2009-14年度卒業時調査の分析— 片瀬 一男
- ・ディープ・アクティブラーニングにおける複雑性の活用 松崎 光弘

○報告

- ・英語教育センター発足までの経緯と初年度の活動 渡部 友子

第15集 2015年3月

○研究報告

- ・本学における成績評価の現状—教員アンケート調査結果の概要— 斎藤 誠
- ・2014年度新入生意識調査から見た新入生の特徴と入学後成績の関係 神林 博史
- ・大学生活の評価(2)—「2013年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・“TGベーシック”の現状と課題—カリキュラム導入からの2年を振り返って— 千葉 昭彦
- ・理科教育を考える 佐藤 篤

第14集 2014年3月

○研究報告

- ・大学生活の評価—「2012年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・本学における不本意入学者の特徴：
東北学院大学新入生意識調査の分析 神林 博史
- ・本学の共通英語教育のあり方を考える
—英語教育の最近の動向を踏まえて— 渡部 友子

第13集 2013年3月

○研究報告

- ・ 現実感をもった英語教育を：英語教育改革私案 渡部 友子
- ・ 「大学組織の意思決定における職員参加」調査報告 亀谷 純

○報告

- ・ 今回の本学教養教育改革について—その背景、意義と今後の課題— 斎藤 誠

第12集 2012年3月

○研究報告

- ・ アカデミックスキル・ルーブリックの開発—初年次教育におけるスキル評価の試み—
葛西 耕市・稲垣 忠

○報告

- ・ 「学生生活実態調査」(2006年・2010年)にみられる本学学生の特徴
—私大連全体との比較の中で— 斎藤 誠

○書評

- ・ 今日の「大学改革」の可能性 —潮木守— 『フンボルト理念の終焉？現代大学の新たな次元』
を読んで— 千葉 昭彦

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第3回

- ・ 教養教育雑感 —自然科学教員が見た大学教育— 高橋 光一

第11集 2011年3月

○研究報告

- ・ 初年次教育による高校と大学の接続—東北学院大学教養学部の場合—
片瀬 一男・葛西 耕市
- ・ 入試方法と学業成績—東北学院大学2009年度卒業生データの分析— 神林 博史

○報告

- ・ 2009年度「卒業時意識調査」報告 加藤 健二

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第2回

- ・ 東北学院(大学)の英語教育を考える 戸田 征男

第10集 2010年3月

○特別報告

- ・ 本学の教育課程改革にむけての私案 斎藤 誠

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (3) 片瀬 一男
 - なぜ入試改革は「失敗」しつづけたのか？
 - ：東北学院大学工学部の場合—
- ・ 日本の大学の「教養教育」の新たな動向 岩谷 信
 - 日本社会や大学教育の構造転換の中で—

○報告

- ・ 2009年度「新入生意識調査」について 教育研究所

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第1回

- ・ 「自己チュー」批判論の盲点 岩谷 信
 - 予言された「ナルキッソスの死」の意味—

第9集 2009年3月

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (2) 片瀬 一男
 - AO入試はA型学生を選抜したのか、それともO型学生に選好されたのか？
 - ：東北学院大学文科系学部の場合—
- ・ 教養教育科目としての「キリスト教学」の意味と課題 佐藤 司郎
- ・ 性の多様性に対応する人権教育についての考察 魚橋 慶子

○報告

- ・ 「大学生の勉強法」を教える初年時授業 佐伯 啓
 - 「言語文化基礎演習」の授業内容とその改善プロセス
- ・ 学士課程教育のめざす方向とその背景 吉村功太郎

○図書紹介

- ・ 神永正博著『学力低下は錯覚である』 菅山 真次

第8集 2008年3月

○報告

- ・初年次教育としての「大学生活入門」—法学部における実践報告— 齊藤 誠
- ・社会変容とこれからの教養教育 佐々木俊三

○研究報告

- ・AO入試に関する試論(1)
—教養学部におけるAO入試入学者の成績を事例に— 片瀬 一男

○特別報告

- ・各大学の「大学教育センター」系組織とその特色
—本学の「教育力の向上」を目指して・準備資料— 教育研究所・所員会議

第7集 2007年3月

○特別報告

「大学教育への取り組みに関する調査」(2006年11月実施)

- ・ユニバーサル化した大学における教員の苦悩
—東北学院大学の教員意識調査から— 片瀬 一男
- ・跋：調査報告書を読んで 副学長(学務担当) 大塚 浩司

○報告

- ・経済学科原級留の実態とその要因の調査報告 千葉 昭彦

○教育研究所所蔵図書紹介

- ・『恐るべきお子さま大学生—崩壊するアメリカの大学』 松本 洋之

第6集 2006年3月

○報告論文

- ・「工学基礎教育センター」の果たす役割と期待 石橋良信、星 善元、女川 淳
- ・文学部歴史学科におけるキャリア支援教育
—「就職の基礎」の〈解説〉を中心に— 楠 義彦

○研究報告

- ・ハビトゥスとしての読書の力
—東北学院大生の図書館利用と学業成績— 片瀬 一男

第5集 2005年3月

○報告論文

- ・成績分析からみた大学教育研究 (4)
—アドミッションズ・オフィス方式による入学生の学業成績を中心に— 大江 篤志
- ・経済学科生の入試類型別成績
調査報告本学経済学科生の成績と入試類型との関連について 原田 善教
- ・退学者動向・調査報告 (1) 教養学部の場合
意欲があって大学を去る者、意欲を失ってやめる者
二つの不幸な退学理由へのブール代数アプローチ 片瀬 一男

○特別報告

- ・教養学部「学生による授業評価」実施概要 教養学部授業評価委員会

第4集 2004年3月

○報告論文

- ・東北学院大学工学部における教育改善の試みと将来構想
石橋良信、星 善元、小野 孝、志子田有光、石川雅美
- ・カード利用による「事案のルール」獲得の可能性 陶久 利彦
- ・互惠を原則とした地域と大学との連携
—東北学院大学の社会教育実習・ボランティア活動の実践— 水谷 修
- ・NPOが大学と連携することの意義
—東北学院大学「ボランティア活動」への取り組み—
特定非営利活動法人グループゆう 中村 祥子
- ・東北学院大学と連携した講座造り実習の取り組み
仙台市中央市民センター 今川 義博

第3集 2003年3月

- 成績分析からみた大学教育の研究(3) 大江 篤志

入学類型と全学共通科目学業成績との関係を中心に

1. 課題と方法 (1)目的 (2)方法 分析対象とする学生／入学類型／全学共通科目／
英語系科目A1／英語系科目A2／4科目の学業成績の関係

2. 全学共通科目の学科別学業成績平均 (1)キリスト教学系科目X 1 (2)キリスト教学系科目X 2 (3)英語系科目A 1 (4)英語系科目A 2 (5)4科目の学業成績の関係
3. 文学部 3-1英文学科 キリスト教系科目X 1. X 2 3-2史学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
3. 経済学部 4-1経済学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
4-2商学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
4. 法学部法律学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
5. 工学部 6-1機械工学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
6-2電気工学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
6-3応用物理学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
6-4土木工学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
1. 教養学部教養学科 7-1人間科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2 7-2言語科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2 7-3情報科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
2. 二部 8-1二部英文科 キリスト教系科目X 1. X 2
8-2二部経済学科 キリスト教系科目X 1. X 2 / 英語系科目A 1, A 2
3. 総括と検討 9-1主要入学類型の分布 男子 / 女子 9-2学科内部における学業成績の男女差 9-3入学類型別にみた学業成績の男女差 キリスト学系科目 / 英語系科目 9-4入学類型と学業成績 キリスト学系科目 / 英語系科目 / キリスト教系科目と英語系科目の関係

おわりに

第2集 2002年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(2)

大江篤志・水谷 修、他

入学類型と学業成績との関係

4. 課題と方法 (1)目的 (2)方法
5. 文学部 2-1英文学科 入学類型の分布 / 登録科目、放棄科目、学業成績 / 学業成績 / 英文科小括 2-2史学科 入学類型の分布 / 登録科目、放棄科目、学業成績 / 学業成績 / 史学科小括

6. 経済学部 3-1経済学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／経済学科小括 3-2商学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／商学科小括
7. 法学部法律学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／法律学科小括
8. 教養学部教養学科 5-1人間科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／人間科学専攻小括 5-2言語科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／言語科学専攻小括 5-3情報科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／情報科学専攻小括
9. 二部 6-1二部英文科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／二部英文学科小括 6-2二部経済学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／二部経済学科小括

おわりに

第1集 2001年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(1)

大江篤志・水谷 修

はじめに

1. 各学科の学生構成 (1)問題関心 (2)学部学科別学生数 (3)各学科の男女比
2. 対象卒業生の成績
3. 合否、法規科目数の学科男女別分布 文学部四学科 経済学部三学科
法学部法律学科 教養学部 小括
4. 学生の移動の場 4-1(1)入学類型の多様化 (2)留年と原級留置き、休学と退学
(3)科目の性格 (4)教員カテゴリー (5)課外活動などとの関連
4-2-開放系システムとしての大学教育

東北学院大学教育総合研究所規程

(2023年3月29日制定第38号)

(趣旨)

第1条 この規程は、東北学院大学学則第66条に基づき、東北学院大学教育総合研究所（以下「本研究所」という。）の組織及び管理運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本研究所は、東北学院大学（以下「本学」という。）における教育（以下「本学教育」という。）及び高等教育に関する調査研究及び提言を行い、本学教育の改善に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 本学教育（学生の学修行動及び学修成果を含む。）の現状に関する調査研究
- (2) 本学教育の基本問題に関する研究
- (3) 高等教育の基本問題に関する研究
- (4) 本学教育の改善に関する提言
- (5) 教育並びに人間の発達及び学習の基本問題に関する研究
- (6) 学校教育及び社会教育の基本問題に関する研究
- (7) 学校教育及び社会教育の実践的課題に関する研究
- (8) 学校教育と社会教育の協働に関する研究
- (9) 報告書等の刊行及び講演会等の開催
- (10) 前各号に掲げる事業実施に必要な資料の収集及び整理
- (11) 第1号から第9号までに掲げる事業実施に関する情報提供
- (12) その他本研究所の目的遂行に必要な事業

(学術情報リポジトリへの登録及び公開の許諾)

第4条 前条に定める事業のうち、刊行物の発行に関しては、当該刊行物に投稿される著作物について、原則として、東北学院大学学術情報リポジトリへの登録及び公開の許諾が得られていることを掲載の条件とする。

(研究部門)

第5条 第3条の事業を行うため、本研究所に研究部門を置く。

- 2 本研究所には、研究分野ごとに、高等教育研究部門、学校教育・社会教育研究部門の2つの研究部門を置き、研究及び調査を行う。
- 3 各研究部門には、3名以上の所員を置く。
- 4 各研究部門には、必要に応じて、客員研究員及び研究補助員を置くことができる。

(組織)

第6条 本研究所は、次の者をもって組織する。

- (1) 所長 1名
- (2) 副所長 1名
- (3) 研究部門長 各1名
- (4) 所員
- (5) 客員研究員
- (6) 研究補助員

(所長)

第7条 所長は、本学の専任教員のうちから学長が委嘱する。

- 2 所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 前項の規定にかかわらず、任期中に所長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 所長は、本研究所の事業及び事業遂行のための業務全体を統括する。

(副所長)

第8条 副所長は、所長が推薦し、学長が委嘱する。

- 2 副所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 前項の規定にかかわらず、任期中に副所長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 副所長は、所長を補佐し、事業の実務を担当する。
- 5 副所長は、所長に事故あるときは所長の職務を代行する。

(研究部門長)

第9条 研究部門長は、各研究部門に属する所員の互選により選任する。

- 2 研究部門長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 前項の規定にかかわらず、任期中に研究部門長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 研究部門長は、各研究部門の事業及び業務を統括する。
- 5 研究部門長は、必要に応じ副部門長を置くことができるものとし、各研究部門に属する所員の互選により選任する。

(所員)

第10条 所員は、本学の専任教職員のうちから、運営委員会の議を経て、学長が委嘱する。

- 2 所員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 所員は、本研究所の研究及び調査に従事するとともに、所長の指示の下、本研究所の事業及び運営業務に携わる。

(客員研究員)

第11条 客員研究員は、本学の専任教員以外の者から所長が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が委嘱する。

- 2 客員研究員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 客員研究員は、所長の指示の下、研究及び調査に従事するとともに、本研究所の事業及び運営業務に協力する。

(研究補助員)

第12条 研究補助員は、本学又は他大学の大学院博士課程前期課程（修士課程）修了者又は後期課程在籍者から所員が推薦し、運営委員会の議を経て、所長が選任する。

- 2 研究補助員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 研究補助員は、本研究所において研究活動の補助を行う。

(総会)

第13条 本研究所は、毎年度1回総会を開く。ただし、所長が必要と認めるときは、臨時総会を開くことができる。

- 2 所長は、総会を招集し、議長となる。
- 3 総会は、次に掲げる事項について審議する。
 - (1) 本研究所の事業計画
 - (2) 本研究所の予算及び決算
 - (3) 研究部門の設置及び廃止
 - (4) その他研究所に関する重要事項
- 4 総会は、所長、副所長、研究部門長及び所員をもって構成する。
- 5 総会は、構成員の過半数の出席により成立し、出席者の過半数により議決する。ただし、可否同数の場合には、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第14条 本研究所に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - (1) 本研究所の運営に関する事項
 - (2) 総会の審議事項に関する原案の作成
- 3 運営委員会は、副所長、研究部門長及び運営委員をもって組織する。

- 4 運営委員会の委員長は、副所長をもって充てる。
- 5 運営委員は、若干名とし、総会において選出する。
- 6 運営委員会の委員長は、運営委員会を招集し、議長となる。

(研究部門の設置及び廃止)

第15条 研究部門の設置は、当該部門に所属する意思のある所員3名以上の連署による書面及びそれらの所員が過去5年間に獲得した外部資金（基金、寄付金、助成金、事業収入等）の導入実績を証明する資料を添付し、所長に申し出るものとする。

- 2 研究部門の廃止は、当該研究部門の所員の3分の2以上の同意を得て、書面をもって所長に申し出るものとする。

(経費)

第16条 本研究所の経費は、大学予算及び外部資金（基金、寄付金、助成金、事業収入等）をもって充てる。

- 2 前項の外部資金の受入れは、学内関係諸規程に従って行う。

(事務)

第17条 この規程に関する事務は、研究支援部研究支援課において処理する。

(改廃)

第18条 この規程の改廃は、総会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

附 則

- 1 この規程は、2023年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、東北学院大学教育研究所規程（平成10年4月1日制定第7号）を廃止する。

第24集 執筆者紹介(執筆順)

千葉 昭彦	東北学院大学経済学部教授・東北学院大学高等教育開発室
紺野 祐	東北学院大学文学部教授
中村 教博	東北学院大学高等教育開発室室長・東北学院大学教養教育センター教授
嶋田みのり	東北学院大学ラーニング・commons特任講師(助教)
遠海 友紀	東北学院大学教養教育センター講師

教育総合研究所 所員紹介

所 長	経済学部教授	千葉 昭彦
副 所 長	人間科学部教授	神林 博史
所 員	文学部教授	紺野 祐
所 員	文学部教授	稲垣 忠
所 員	文学部教授	加藤 卓
所 員	文学部教授	渡辺 通子
所 員	文学部教授	佐藤 正寿
所 員	文学部教授	長島 康雄
所 員	文学部教授	清多 英羽
所 員	文学部准教授	高橋 千枝
所 員	文学部准教授	清水 遥
所 員	文学部准教授	大友 麻子
所 員	文学部助教	松本進乃助
所 員	文学部講師	大門 耕平
所 員	地域総合学部教授	大迫 章史
所 員	地域総合学部教授	原 義彦
所 員	地域総合学部教授	清水 貴裕
所 員	地域総合学部准教授	坪田 益美
所 員	地域総合学部准教授	泉山 靖人
所 員	教養教育センター教授	岸 浩介
所 員	教養教育センター教授	角田 寛明
所 員	教養教育センター教授	楊 世英
所 員	教養教育センター教授	金 永昊
所 員	教養教育センター教授	中村 教博
所 員	教養教育センター講師	遠海 友紀
所 員	教養教育センター講師	齋藤 渉
所 員	教養教育センター助教	千葉 真哉
客員研究員	ラーニング・commons特任講師(助教)	嶋田みのり

東北学院大学教育総合研究所報告集 第24集

発行日 2024年3月1日

編集人兼
発行人 千葉 昭彦

発行所 東北学院大学教育総合研究所
〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
Tel. 022-354-8180

印刷所 株式会社豊栄堂印刷所
〒983-0004 仙台市宮城野区岡田西町1-58
Tel. 022-287-3355 (代表)